

今日の聖書の箇所が読まれることは、大変珍しいことです。今年のイースターは3月31日ということで、早い時期に復活日が来ました。移動する祝日（復活日）に伴って、先週の三位一体主日・聖霊降臨後第1主日までは、決まった伝統的な特祷、聖書日課が続きました。しかし、聖霊降臨後第2主日から、別の言い方をすれば、緑の祭色で礼拝をするこれからの季節は、イースターが基準ではなく、その日曜日が何月何日か、ということから特祷や聖書日課が変わるのです。

特定4という箇所の後には、括弧つきで（6月1日に近い主日、週日）となっています。6年前、8年前と11年前にも、実は特定4からこの緑の季節は始まりました。聖霊降臨後第2主日が特定4の特祷を祈るのはそんなに珍しいことではありません。6年前、11年前、19年前も特定4から始まりました。6年前もB年でしたが、それより前に特定4がB年だったのは、21年さかのぼる、27年前の1997年でした。6年前には確かに読んだのですが、その前は20世紀の終わりごろのことだったので。祈禱書16、17頁の表を見たらわかるでしょう。表が2013年からのものなら、今年が#4、Bがわかるし、1991からの表なら、1997年の列に、それが確認できます。まあ珍しい聖書の個所に注目してみましょう。

さて、今日の説教の題は「安息日は何のためにあるのか」ということにしました。この問題について考えることにしましょう。

今日の福音書は、イエス様と弟子たちが、安息日に麦畑を歩いていた時に起こったことです。その時弟子たちは歩きながら麦の穂を摘み始めました。するとそれを見ていたファリサイ派の人々が、イエス様に、弟子たちの行動に問題があることを指摘したのです。

何が問題だと思いますか？

今日の旧約聖書には、モーセの十戒が出てきました。

わたしたち日本人の価値観からすれば、十戒の8番目「盗んではならない」という戒めが頭に浮かびます。麦の代わりに、それがスイカだったらどうでしょうか。他人の畑に入って、スイカを持っていったら泥棒です。しかし、もしその畑の中で、スイカを割って食べたなら、それは許されることでしょうか。おそらく、日本ではそれも「盗み」と同じ罪になるのでしょうか。ところが、ユダヤ人たちの法律の元になるモーセ五書のひとつ、申命記の23章にはこんな言葉があります。

◆人の畑のもの（23：25～26）

隣人のぶどう畑に入るときは、思う存分満足するまでぶどうを食べてもよいが、籠に入れてはならない。23:26 隣人の麦畑に入るときは、手で穂を摘んでもよいが、その麦畑で鎌を使ってはならない。

ユダヤ教の規定がたくさん書かれている申命記によると、ぶどう畑でブドウを腹いっぱい食べてもかまわない。しかし籠を使ってはならない、というわけです。同じように、麦の穂を畑で摘んでも、そこで食べるのなら問題はないが、鎌を使う、ということは、ぶどうを籠に入れるのと同様、他へ行って自分の財産にすることになるから、問題なのです。

だから、他人の畑でできたものを、空腹だから食べる、というのは許されている行為なのです。ただ、問題は、安息日には、労働してはならない、ということになっていて、畑で麦の収穫をすることなどは、安息日に禁じられている労働の一つだったのです。

わたしは何度かイスラエルへ旅行して、安息日をエルサレムで迎えたことがありました。面白いのは、エレベーターに乗る時です。すべてのエレベーターではありませんが、安息日になるとユダヤ人が厳格に掟を守ることができるように、安息日用のエレベーターは、各階停車です。1階から5階まで行くためには、その各階停車のエレベーターに乗って、目的の階が来るまで、何度もドアが開いたり閉まったりするのを見て、5階が来たら降りるのです。

もう一つは朝食のバイキングの時の飲み物を手に入れる場合です。普段はジュースもコーヒーもボタンを押したら出てくるのですが、安息日には飲み物を入れたジャーを取ってコップに入れるのです。

イスラエルのガイドさんの説明によると、ユダヤ人の労働の定義は、自然の、あるがままの状態に対して、化学変化を起こすことが労働なんだそうです。エレベーターや飲み物を出す機械のボタンを押すことは労働になる。しかし、安息日が始まる前から、各階停車のエレベーターが動いているのなら、何も手を加えないで、行きたいところまで乗って待っていたらいいわけです。ボタンを押さずに、ジュースが入ったジャーを傾けてコップにそれを入れるのは、労働にはならず、食べ物を食べるという、人間に許可された行動になるわけです。

さて、それで結論ですが、それは今日の旧約聖書、十戒の安息日が設定された理由のところには、はっきりと書かれています。十戒は、今日の申命記5章と、出エジプト記20章に載せられています。ところが、安息日が設定される理由が、申命記と出エジプト記では、違っているのです。

(出エジプト記20：8～11)『20:8 安息日を心に留め、これを聖別せよ。20:9 六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、20:10 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。20:11 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。』

こちらは、神様が天地創造のわざを6日間でやり7日目に休まれたことが根拠です。一方申命記は

(申命記5：12～15)『5:12 安息日を守ってこれを聖別せよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。5:13 六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、5:14 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる。5:15 あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。』

今日の十戒に書かれた安息日の目的は、エジプトでの奴隷生活から解放されたことを思い起こすためです。

イエス様は『安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある。』とされています。

人々を奴隷のように雁字搦めにするような掟は間違っている。エジプトで奴隷として働かされていたイスラエル人を束縛から解放し、人々を自由にさせるために、掟、具体的には『安息日』があるんだ、ということでしょう。

このために、わざわざ、特定4の旧約聖書には、エジプトからの解放を告げる、申命記の十戒が選ばれているのだらうと思います。

それでは、現代に生きる私たちは、どのようにして、律法の束縛から解放されるべきなのでしょう。

私は以前イギリスに行った時、人々が信号を無視して横断歩道を渡っていることに、驚いたことがあります。私は赤信号なら止まって待つのですが、イギリスの人たちは、信号を絶対に守る必要のあるものとは考えず、渡っても安全だと判断したなら、自己責任で渡る、というわけでしょう。

それは、人間が法律の奴隷になって、法律のために人間がある、というわけではない。人間が住みやすい生活のために、法律があり、信号がある、という理解だと思います。

それが、今日の福音書のイエス様の言葉『安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある。』という教えに通じるものだと思います。

私たちは、それぞれのルール、法律が、何のためにあるのか、その目的を確認しながら、それを守るか、あるいはそれを改正するか、考えながら歩むことが必要に思います。

本当にそれが人間のためになるのかどうか、その判断基準を持って、歩みたい。私たちの信仰が、束縛からの解放になるものでありたいと思います。